

(様式3)

自己評価結果票

グループホーム リーベストラウム 3階(井上喜代美)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の中で尊厳を守られて生活していく理念を作っている</p>	<p>その人らしい生活を送られる支援をしていく</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の実践に向けてサービスに取り組んでいる。</p>	<p>入居者の尊厳を尊重しながらご本人の残存能力を生かして日々の生活の中で実践している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>2階玄関ドア横に掲げて常に利用者や家族、訪問された方が自由に目にされるよう配慮している。</p>	<p>家族会、地域連携運営推進委員会等でご理解いただけるよう説明している。</p>
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩、和菓子屋や、薬局への買い物の道すがら声を掛け、挨拶している。また、ご近所の人々も挨拶してくれる。近所の喫茶店を利用してお茶を楽しんでいる。</p>	<p>さらにホームでの催しへのお誘いを活発に行きたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>民生委員、自治会長を通じて広く地域に出て行き、情報を取得し行事等に積極的に参加し、地域の人々との交流を深めるよう努力している。</p>	<p>地域の行事(文化祭への作品出品、持ちつき、植樹祭)への参加をする事で地域の人々との交流を深めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	民生委員総会、婦人会総会に出席、説明させて頂 き、グループホームの説明を行い、認知症につい ての相談をさせて頂く事を伝えている。ショール ステイ利用について検討している。		これからも更に積極的にアプローチして行きたい。 入居状況に応じて臨機応変に対応できる体制 を作る。
3.理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果、見直し部分を理解し、管理者が職員 に伝え改善するよう努めている。		ホーム入り口をアットホームな飾りつけにし、地 域の方が訪問し易い雰囲気作りをした。地域の民 生委員、自治会長、婦人会の人々と交流を持ち、 情報を頂いている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議で取得した情報を元に入居者に対す るサービス向上に生かしている。		入居者と地域交流の機会をより一層深めたい。
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町と ともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本多聞介護支援センターへは入居者の認定の事 で度々訪れ、そのたびにホームの様子を伝えてい る。		市町に運営や現場の実情を理解してもらい、現状 に即した考え方を持ってもらうよう訴える。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	それぞれ研修で学んでおり、機会をみつけて互 いに話し合っ情報共有に努めている。		入居者にとって必要と思われたときには後見制度 について説明していく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅 や事業所内で虐待が見過ごされることが ないよう注意を払い、防止に努めている	研修にて学んでいる。また、ミーティング時に職 員間で知識を共有できるよう情報提供に努めてい る。ホーム内での虐待に関しては職員が一団と なって注意を払っている。		これからも更に気をつけて行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、契約解消時の際、管理者は入居者、家族等に十分に説明を行い、理解、納得を得ている。</p>	<p>文書による内容の説明を徹底する。文書にて同意を得る。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々のケアの中で入居者の意見、不満には十分に耳を傾けている。また、ミーティング等でそれを発表している。運営推進会議には利用者も参加している。</p>	<p>入居者が自分の意見や思いを気軽に言える温かい雰囲気作りをする。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月定期的に家族への便りを送付し、入居者の日常の様子を伝えている。また、個々には、健康状態、受診の結果などを電話、来訪時に伝えている。家族会も定期的に開催し、情報を伝えている。</p>	<p>個別の家族会を開催し、家族会に常時欠席の方にホーム内での入居者の様子をお伝えしていく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置し、ご意見を聞くようになっている。運営推進会議、家族会でご家族の意見をお聞きしている。又、日常も来訪時に家族とコミュニケーションを取るよう心がけ、意見を聞くよう努力している。</p>	<p>訪問の少ないご家族には、電話で連絡を取る。個別の家族会に来ていただき、ご意見を聞く。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常の業務の中で職員の意見を十分に聴き意見を生かしている。ミーティング等でも意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>職員が意見を述べやすい雰囲気を作る。職場以外でもその機会を設ける。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の健康面の変化により遅出勤務や早出勤務の業務体制を変更したりして必要に応じて対応している。</p>	<p>常に現場の状況を把握しその時に最適な勤務体制を検討する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の際には、事前に職員同士で入居者にどのように説明し、対応するか検討している。前のユニットの入居者と完全に関係を断ち切るのではなく、関わりの時間を設けて、利用者へのダメージを最小にするよう努力している。		職員と入居者の馴染みの関係を優先し、職員の配置、異動を最小限に抑える。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護関係の情報誌を二部購読紙、その中での研修の情報を収集、職員に伝えている。また、経験、立場に合わせた研修を受ける機会を与えている。		公的な研修だけでなく、月1回のミーティングを利用した身近な勉強会を持つ。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム集団指導や地域密着型サービス運営委員会委員研修等に参加し、同業者との交流を図っているが、ネットワーク作りや勉強会には発展させていない。		交流のあるグループホームには職員を見学、研修に出張させ、情報交換、勉強させている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員の業務上の悩み、ストレスを聞き入れるよう動力している。職員が働きやすい職場作り、意見が言い易い雰囲気作りを心がけている。		スタッフルーム等の整理整頓を心がけ快適な空間作りにも配慮する。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は(運営者)介護情報、方法等をコピーし職員に伝えたり、月刊誌、情報誌を購読させ各自が向上心を持って働けるよう配慮している。		職員の努力を認め、要望に耳を傾ける努力をする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者が職員と共に面接に出向き、直接本人、家族と会い、不安なこと、入居後の要望など細かく聴いて受け止めている。</p>	<p>事業所と家族間のみで契約が成立しているが、理解力のある入居者の場合は本人にも同席の上、納得し安心してもらえるよう努力する。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアマネージャーを通じて家族の困った状況、不安を聴いたり、直接面接をし、家族自身の思いを聴き、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族が気軽に相談しやすい雰囲気を作る。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>身体状況に応じ、福祉用具サービスを検討し、レンタルで車椅子を利用している。</p>	<p>社会資源情報を得よう地域、施設、団体の事例を検討する。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族が大変急がれている場合が多く、契約が成立しすぐに入居の状態が多い。その時でも、他の入居者に紹介をさせて頂き、少しずつ慣れて頂くよう努力している。また、家族族、馴染みのヘルパーの協力をを得られるよう努力している。</p>	<p>入居者が不安を抱かないように入居直後は十分に配慮してケアする。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と一緒に調理をすることで料理の方法を聞いたり、日常の会話の中で茶道、書道、芸術など趣味を通じて学んだりして一方的な関係を脱している。</p>	<p>入居者との関わりの時間を心して増やすことを心がけ関係の充実を大切にする。個々に美術展などに行って頂く支援をする。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	生活現場に、家族も入って頂き、散歩、おやつの準備などを手伝って頂く事で職員と一緒に入居者を支えていく関係を築いている。訪問のない家族様には連絡を入れている。		出来るだけ訪問をお願いし、共に支えあう関係を理解していただく。家族会、個別家族会等で意見を聴く機会を設ける。
29	利用者との関係のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に来院して頂く様行事参加を呼びかけている。入居者の身体状況の変化等を連絡し、近況を伝える。		疎遠になった家族に、きっかけ作りを行い、来院を促す。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人、友人が来院し、充実した時間を持っていて頂いている。職員も歓迎する。家族との外出を支援し、また、帰宅願望を満足させるため一時帰宅を支援している。		本人の希望に添って継続していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を理解し、その関係に応じて職員が配慮している。		入居者一人一人がホームでの生活を楽しめるよう支援していく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなった後も1年間はお盆、命日には供え物を送り偲んでいる。遠くからわざわざ訪ねて下さる家族を大切にしている。また、途中退去された方のご家族とも連絡を取って状況を確認して来た。		これからも今まで同様入居者家族を大切にしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご本人や家族等、ご本人を良く知る人々に希望、意向を聞いたり、普段の生活の中でご本人と接しながら把握できるよう努めている。</p>	<p>今後ご本人の希望、意向が把握できるよう努める。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の面接で家族様から聞き取りをしているが、入居後、ご本人から過去の生活歴や暮らし方を聞き、把握に努めている。</p>	<p>今後ご本人の馴染みの生活が出来るようこれまでの暮らしの把握に努める。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>職員同士が申し送り、ミーティング等の機会を利用し、入居者の現状を総合的に把握するよう努めている。ノートや日誌を活用している。</p>	<p>出来るだけ、職員が集まる機会を生かして、今後も入居者の現状を総合的に把握していく。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人、家族と話し合い、出来る限りご本人が希望する生活を送れるような介護計画を作成している。</p>	<p>今後も家族様の意向を聞きながら、ご本人が希望する生活を送れるような介護を考え、介護計画を作成する。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングや利用者の状況の変化に応じて入居者や家族、関係者と話し合い、現状に即した計画作成に努めている。</p>	<p>これまで通り期間内でも入居者の状態の変化に応じて新たな計画を作成するよう努める。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が読んでも利用者がどういう一日を送ったのかわかるような記録を書くよう努めている。また、介護計画の見直しに生かしている。		わかりやすい記録の書き方を実践している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	している。特に怪我、病気の時には、1階の医院の主治医に相談して適切な配慮をしている。		今後も入居者、家族様の状況に合わせた支援を行っていく。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月2回のボランティアによる歌や絵手紙等の時間をもち、利用者や家族等楽しんでいる。また、民生委員のお誘いで地域の文化祭に作品を出品している。また、消防訓練にも入居者が参加している。		今後も地域の人々の力を借り、入居者、ご家族に楽しんで生活を送っていただく。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者である福祉用具取り扱いの事業者をりようして車椅子、福祉用の靴の購入をしている。		今後は多岐にわたるサービスを受けられるよう支援していく。
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域連携で包括支援センターとは協働しているが権利擁護、ケアマネジメントについては話していない。		より深く地域包括支援センターと協働していく。今後、権利擁護で相談の機会があるかと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1階の主治医が主に診察をしてくれているが、希望により、他の病院、医院への受診の支援をしている。		今後も入居者、ご家族の意向に合った受診を支援していく。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	1階の主治医は、厚生労働省の定めるかかりつけ医認知症対応力向上研修、他の機関の認知症に関する研修を受けて診断強化に努力している。また、困難患者に関しては専門医に相談、受診を勧めている。		これからも同様に適切な診断を得られるよう支援していく。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	近くの看護師が職員として週1回勤務し、その時気軽に相談している。また、1階の医院の看護師とも顔馴染みで日常の健康管理の支援をしている。		これからもより一層健康面での管理、相談の支援をしていく。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	している。入院期間中はお見舞いを欠かさず、励まし、早く退院出来るよう担当医師とも情報交換を努めてきた。協力病院はあるも、満床であったり、専門の医師が不在だったり、救急病院に搬送されることが多い。1階の主治医は、どの病院とも地域の病診連携をとっている。		これからも入院時は安心できるよう支援していく。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時のあり方について、常に主治医から意見を聞き、家族様に伝えている。		これからも主治医と家族様の間で密に連絡を取り、ご家族が納得されるよう努力する。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を迎えられた入居者に関して、主治医、ご家族と連携を取り、介護職として出来るだけの事をしていく準備をしている。		今後も経験を生かし、出来るだけの支援をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居時には集中的に手厚いケアを心がけてきた。また、別の施設に移られるときには、入居者が快適、安心に過ごされるか前もって情報を得るようにしている。</p>		<p>今後も入居者がよりよい環境で生活が送られるよう支援していく。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全職員が入居者のプライバシー確保に努めている。</p>		<p>今後も努めていく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の会話の中で注意して希望を表せるよう働きかけている。常に本人の意思決定で暮らせるよう支援している。</p>		<p>今後もより注意をもって支援していく。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者のペースに合わせて生活している。自己表現の不可能な人にはその人の顔色、様子を見ながらその人の希望に添った生活を支援している。</p>		<p>これからも入居者のペースに合わせた支援をしていく。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎日の洋服選びも入居者の希望でもらっている。理・美容は、決まった人がボランティアで来て、一人一人と会話を楽しんでもらっている。</p>		<p>今後も入居者主体の生活を支援していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けを入居者と共にしている。メニューの好みも聞きながらその人に合った献立を立てている。片づけがご本人の生き甲斐となっている方もある。		今後も調理という生活リハビリを大切にしたい。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好は大切にして、毎回好みを聞いて飲み物など提供している。		今後もその人らしさを大切に生活してもらおう。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけトイレでの排泄が出来るよう排泄パターンを知り、誘導を行っている。		今後も気持ちいい排泄の支援をしていく。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間の枠を取り払い、声をかけ、希望される時に入浴出来るよう支援している。		これからはもっと自由な形で入浴を楽しんで頂けるよう努力したい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者に合わせた声掛けをし、休んで頂いている。		今後もゆっくり休んで頂けるよう支援する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を参考に、料理、ピアノ、生け花、書道、茶道、絵画などを楽しんでもらっている。		これからも支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、買い物を楽しんで頂いている。		もっと多くの入居者に自分のお金で買い物を楽しんでもらう支援をしていく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩、車を利用しての外出は日常的に行っている。		これからも楽しんでもらう。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	京都の美術館、芦屋のデパートでの買い物に個別で行く支援をしてきた。		これからも遠くても希望があれば外出支援をしていく。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って自由に通信のやり取りをしてもらっている。		これからも自由にしてもらう。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間に制約されること無く自由に家族、友人の訪問を歓迎している。一緒にお茶の時間を楽しんで頂いている。		今後も自由に訪問を支援する。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で身体拘束を理解し、見守りを強化し、安心して暮らして頂くケアを行っている。		これからも身体拘束しないケアを行う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室にも玄関にも鍵をかけていない。見守りを重視している。		今後も鍵はかけない。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	24時間体制でそっと入居者の様子を把握し安全確保に努めている。		今後も努めていく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁など、使用中は見守りを行い、使用後は、保管場所に保管している。		今後も安全確保に努める。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態に応じ、事故防止に取り組んでいる。小さい方には、テーブルの低いものを用意し、誤嚥を防いでいる。また、誤薬防止の為職員同士、本人にも確認を取って与薬している。ヒヤリ・ハットの書類を目に付く所に置き、注意を促している。		これからも注意をして事故防止に努める。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作っている。救急訓練の講習を受けている。		今後も強化していく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員による避難訓練を行い、また、地域とも連絡を密にし協力を依頼している。		今後も入居者の安全を第1に職員全員で努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会等に於いて自由に暮らして頂く意義と、自由に伴う危険を理解して頂いている。		今後も家族様の理解を得られるよう折に触れ話し合っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違う様子にいち早く気づき、記録に記入し、申し送りを行い全員が把握し、見守り、必要であれば主治医に報告、相談している。		今後も、気付きを強化し、大事に至らないよう努力する。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、日付、名前、食前、食後等の確認を職員間、入居者ともに行っている。症状の変化に早く気付き、受診につなげている。		今後も服薬支援をしていく。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の入居者には水分補給を強化したり牛乳ヨーグルトなどを勧め、運動するよう働きかけている。		今後も気をつけて支援していく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、入居者の残存能力に応じて声掛けし、洗面所まで誘導、介助を行っている。		今後も支援していく。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時、入居者の能力に合わせ、刻み、つぶしなど工夫している。水分量は記録している。		今後も努力していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは主治医に予防接種を依頼している。こまめに手洗い、うがいを励行して、ウェルパス等で手指を消毒している。トイレのタオルは、使い捨てのペーパータオルを使用。マニュアルを作っている。		今後もこまめに努力していく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁やまな板などの消毒は夕食後必ず行い、食器、調理器具は乾燥機で乾燥させている。食材は、特に気をつけて新鮮なものを求めている。管理も気をつけている。		今後もよりいっそう努力する。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門から玄関まで、入居者が植え、育てた鉢植えが並んでいる。また、木の看板は、入居者の筆によるものである。新しく設置した看板のイラストは職員の手によるものである。		これからも工夫して努力していく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保持し、花を生けるなど工夫して居心地の良い居間となっている。窓には暖色のスクリーンがかかっており、光を和らげている。壁には入居者の手作りの絵、書、作品等が飾られ、温かい雰囲気である。		これからも居心地のいい共用空間を作っていく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに複数のソファを置き、二人で会話を楽しんだり、一人でテレビを見たり出来るようになっている。		今後も集団の中の一人を大切にしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた家具を置いて頂いたり、自分の描かれた絵をかけられたりして楽しんで頂いている。		これからも居心地の良い部屋作りの支援をしていく。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用部分、各居室には換気扇をつけ、また、空調も完備している。職員が常に気を配り、温度調節、換気をこまめにしている。		今後も清潔を保ち、健康を維持するよう努力する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な所に手すりを設置、歩行が安全に行われるよう支援している。		これからも能力に合った安全を考える。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	目新しい物品が増えた時には特に気をつけおき場所を考えたり、入居者にも説明をする。		今後も充分気をつけていく。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	屋上、裏庭での洗濯干しやプランターを使った花、野菜などを育てている。		今後も楽しく生活していただく努力をする。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様の思いを大切に、その方らしい生き方を探りながら日々過ごしている。その方の生きて来られた人生を尊重し、その方を敬愛している。言葉遣い、態度に心をこめて介護するよう努力している。グループホームが対の棲家であることから目を逸らさず、人生の最終章が豊かで誇り高く満ち足りたものであってほしいと心から念じ、介護に取り組んでいる。